

により、ほぼ確実にチェックすることができる。設備または時間の関係により検査の余裕がない場合でも、すくなくとも①と⑤は検しておかねばならぬ。出血時間測定は、白血球算定のため耳朶より採血したあとの創を利用すればよい。ただし術前の検査ではなんら異常なく、術中突然 oozing をきたすようなことがときにある。これは血中に強力な線維素溶解酵素（プラスミン）が出現したためにおこる出血性素因で、一般に線維素溶解性紫斑病と総称され、肝障害・前立腺疾患・血球増多症などに合併することが多く、イブシロン・アミノカプロン酸、トランス・アミノメチル・チクロヘキサン・カルボン酸、純化フィブリノゲン投与などが奏効する。なお出血性素因の診断・処置についての詳細は別著^{5) 6)}を参照されたい。

おわりに

以上虫垂切除に際し予想される出血と、その対策に関する概要を述べた。實際上、虫垂切除に際して大出血を見る頻度はそれほど高くないかも知れないが、「虫垂切除ぐらい」と侮どる心が失敗のもとなので、手術のたびごとにあらかじめ遭遇すべき危険を想定しておき、いざという場合にう

ろたえぬだけの知識と判断を養っておくことが、外科医として大切な心掛けであると思う。

文 献

- 1) Anson, B. J. and W. G. Maddock: Callander's Surgical Anatomy, 3rd Ed., W. B. Saunders, Philadelphia/London, 1952.
- 2) Bier-Braun-Kümmel: Chirurgische Operationslehre, Band IV, Johann Ambrosius Barth, Leipzig, 1955.
- 3) 福田 保: 虫垂炎の手術, 日本医書出版, 東京, 1950 年.
- 4) 井上 雄: 虫垂炎の手術, 新しい外科手術, p. 142-155, 南江堂, 東京, 1956 年.
- 5) 村上文夫: 術後出血——出血性素因を中心として——, 外科診療, 3(2): 214-223, 1961.
- 6) 村上文夫・門田尚武: 外科臨床と線維素溶解現象, 最新医学, 21(2): 284-291, 1966.
- 7) 中山恒明: 虫垂炎の手術, 消化器外科手術, 改訂第2版, p. 349-359, 金原出版, 東京, 1966 年.
- 8) Pernkopf, E.: Topographische Anatomie des Menschen, 2. Band, 1. Hälfte, Urban & Schwarzenberg, Berlin/Wien, 1943.
- 9) 島田信勝: 虫垂炎, 治療法, 日本外科全書, 第21巻, p. 211-263, 日本外科全書刊行会, 東京, 1954年.
- 10) 安富 徹: 虫垂炎, 外科治療, 3(5): 664-670, 1960.

☆NEWS

The German Society of Neurosurgery

will hold their annual meeting 1970 in connection with the

International Symposium on Stereoecephalotomy in Freiburg/Breisgau.

Topics of the Int. Symposium (27th—29th September 1970):

Stereotactic Treatment of Hyperkinesias

Recent Developments in Stereoecephalotomy

Free Topics

Chairman: Prof. Dr. T. Riechert, Freiburg

Topics of the Annual Meeting (30th September—1st October 1970):

Disorder of Metabolisms with Central Dysregulation

(proteins, lipids and carbohydrate)

Methods of Operation to the Cervical Spine

Free Topics

Chairman: Prof. Dr. H. W. Pia, Gießen

Application for lectures and information for both meetings:

Prof. Dr. Fritz Mundinger, Neurochirurgische Universitätsklinik,

D7800 Freiburg/Breisgau, Hugstetterstraße 55

む す び

ヘルニア手術に随伴する出血の問題は手術そのものが比較的簡単のため、実際にはそれ程重要なものではないかもしれない。しかし前述の如く粗暴な、または不用意な手術により思わざる失敗を起さないとは限らない。したがって手術はあくまで慎重に局所解剖に立脚した正確な手術をする以

外に、ヘルニア囊剥離に際し周囲組織の損傷を最小限に止めること、辜丸はあくまで疵護的に扱うこと、止血は一つ一つ完全に行なうこと、感染防止は十分に行なうこと、出血傾向の有無に対しては術前十分に検査した上で対策をあらかじめ講じておくこと等が必要である。

☆ NEWS

腎移植時の組織適合性検査のお知らせ

腎移植（生体・屍体）時ドナー選択のための組織適合性検査に必要な血液の採取とその送付方法および histocompatibility testing center の組織化の試みを慶大で行なっており、他施設の検査も引受けているのでその概要を紹介する。

① 慶大で現在施行している histocompatibility testing は原則として lymphocytotoxicity test (HL-A 系) で時に mixed lymphocyte culture を併用する。② lymphocytotoxicity test は NIH tissue typing antisera を用いることにより世界的なレベルで HL-A 系により検討できる特長がある。

具体的な採血方法と送血手順、医者側の行なうこと

① 慶大病院で採血する時、直接患者が来院する時、
④ 原則として泌尿器科または放射線科外来にて採血、同時に輸血センターで赤血球抗原を検査する ⑤ ヘパリン添加 20ml 注射器（ノボヘパリンを 10ml 蒸溜水で溶解、0.1～0.2ml 注射器にとり、十分に注射器の管壁を濡らし、そのまま残しておく）にて肘静脈より、溶血・凝血がおこらないよう 20ml (10ml でも可) 採血する。
⑥ ただちに注射針をはずし管壁に沿って静かに滅菌試験管にうつす ⑦ 滅菌プラスマジェル溶液を血液量の 1/3～1/2 容を無菌的に加え静かに 1～2 回混和する ⑧ 室温で静置 30 分 ⑨ 以下リンパ球の分離操作、ついで lymphocytotoxicity test を行ない判定、記録カードに集計する。

② 慶大病院以外の大学病院、研究所で採血の機会ある時（原則として ① に準ずる）。④ ヘパリン添加 20ml 注射器にて ① と同様に採血する ⑤ 各施設でできるだけ詳しく赤血球抗原の検査が行なわれることが望ましい ⑥ ただちに注射針をはずし管壁に沿って静かに滅菌試験管にうつしゴム栓にて密栓する。できれば試験管は硬質性、破損しにくいものがのぞましい。⑦ 以下 ④ の送血手順に従う ⑧ 原則として、予定されるドナーとリシビエントは同時期に検査されるのが望ましい。

③ 屍体からの採血 ④ 原則として死後可及的速かに採血する ⑤ 不可能なときには腎摘出時または解剖時に動静脈血から前述の方法に従って採血する ⑥ 無菌的に試験管に入れ前述の方法に準ずる。

④ 送付側の採血後に行なうべき手順 ④ 採血した試験管は可及的速かに氷の入ったアイスボックスに入れ 4℃ に保存する (0℃ 以下で保存することは現段階では望ましくない) ⑤ 試験管が破損されないよう周囲を充分保護する ⑥ アイスボックス内の氷が解けても水が試験管内に入らないよう工夫する ⑦ アイスボックスを外方より密封した後「天地無用」「左右に振るな」「運搬注意」を記載し、次の事務上の手続きを行なう。

⑤ 送血事務上の手続き、医者側と運送会社との協同行なうこと ④ 採血後アイスボックスに詰め送付できるように手続きしている時に、一方では後に述べるリストに基づき日通航空と電話連絡する ⑤ 輸送は日通で各支店の担当者は後に記す ⑥ 原則として電話連絡を受けると可及的速かに日通航空により血液が集荷される ⑦ 送付後の検査に要する時間等を考慮し、できるだけ前日にその予定のあることを日通航空に連絡し、当日は 9:00 A. M. に集荷でき、羽田空港に遅くとも 2:00 P. M. に到着するよう手配するのが望ましい。⑧ また 1 日前に慶大病院 03-353-1211・内線 2472・2471 の辻公美あるいは内線 2423・2424 の中村宏に電話連絡する。

輸送の連絡は◎東京地区：日本通運東京空港支店国内貨物係山本主任（東京都大田区羽田空港 2-5-1・03-741-6151 内線 2263・2363）◎札幌地区：日通札幌支店堀川主任（札幌市北 5 条西 1 丁目・0122-24-4750）◎盛岡地区：日通盛岡支店小野崎係長（盛岡市駅前通 9-12・0196-23-4141）◎仙台地区：日通仙台支店大籠係長（仙台市東 5 番 7・0222-21-2121）◎大阪地区：日通大阪支店北川係長（大阪市福島区海老江上 4-12・06-458-8991）◎福岡地区：日通福岡支店福江係長（福岡市博多駅前 2-13-20 号 092-41-2721）◎長崎地区：日通長崎支店大原所長（長崎市大黒町 13-1・0958-26-1181）

血液送付先：東京羽田日通航空国内貨物課気付 東京都新宿区信濃町 35、慶大病院 2 号棟地下放射線研究室 辻公美ゆき

運送経費：原則として集荷代 200 円、航空代 1,500 円、羽田からの運賃 3,000 円、計 5,000（送付側が支払う）

検査費：当分の間無料